

第1回 胃がん検診に係る懇談会

令和7年5月26日（月） 18:30～

胃がん検診に係る懇談会 スケジュール

第1回

日時 5月26日(月)
18:30～

- (1) 進行役の選出及び職務代理者の指名について
- (2) 会議の運営について
- (3) 胃がん検診の手法や対象者についての意見交換
 - ・ 受診対象者
 - ・ 検査手法
 - ・ 検診間隔

第2回

日時 7月2日(水)
18:30～

- (1) 第1回懇談会のまとめ
- (2) 胃がん検診実施要件や実施体制についての意見交換
 - ・ 検査機関
 - ・ 読影機関
 - ・ 制度管理体制
(運営委員会の設置)

第3回

日時 8月～9月を平日を予定
時間は18:30～

- (1) 第2回懇談会のまとめ
- (2) 胃がん検診実施体制(案)や実施要綱についての意見交換
 - ・ 実施要綱
 - ・ 実施体制
 - ・ 実施医療機関の選定基準

附属機関（保健所運営協議会）において審議

国の指針と本市のがん検診の状況

第1回胃がん検診に係る懇談会
旭川市資料

■ 国の指針と本市のがん検診の比較

●不一致部分を赤字で表示

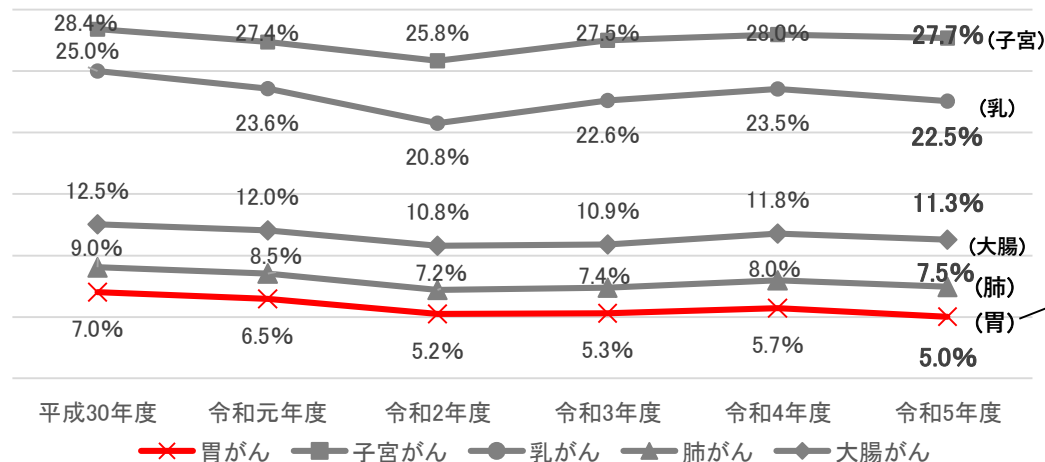
		検査方法	対象者		受診間隔	
胃がん検診	国指針	胃内視鏡検査 胃部X線検査	50歳以上	当分の間胃部X線検査のみ40歳以上実施可	2年に1回	当分の間胃部X線検査のみ年1回実施可
	旭川市	胃部X線検査	40歳以上		1年に1回	
		ピロリ菌検査（市単独検査）	・20歳 ・35.40.45.50.55.60.65.70歳の旭川市国保加入者			
肺がん検診	国指針	胸部X線検査 （必要に応じて喀痰細胞診）	40歳以上		1年に1回	
	旭川市	胸部X線検査 （必要に応じて喀痰細胞診）	40歳以上		1年に1回	
大腸がん検診	国指針	免疫便潜血検査2日法	40歳以上		1年に1回	
	旭川市	免疫便潜血検査2日法	40歳以上			
乳がん検診	国指針	マンモグラフィ	40歳以上	女性	2年に1回	
	旭川市	マンモグラフィ	40歳以上	偶数年齢の女性	2年に1回	繰越受診可 ※1
子宮がん検診	国指針	頸部細胞診 （必要に応じて体部細胞診）	20歳以上	女性	2年に1回	
		HPV検査単独法（実施体制が整った自治体から開始）	30歳以上		5年に1回	
	旭川市	頸部細胞診 （必要に応じて体部細胞診）	20歳以上	偶数年齢の女性	2年に1回	繰越受診可 ※1
		HPV検査（市単独検査）	20歳～49歳	条件：子宮がん検診と同時実施		

※1 繰越受診とは…対象年に受診がない場合、翌年に権利を繰り越すことができる制度。

本市のがん検診受診状況

第1回胃がん検診に係る懇談会
旭川市資料

旭川市がん検診受診率の推移（保健所統計）



胃がん検診
受診率は
目標値の半分
(第3次健康日本21旭川計画)

胃がん検診
受診率は
R5年度
コロナ禍を
下回っている

目標値（R5）		達成状況
子宮	26%	○
乳	32%	×
大腸	16%	×
肺	11%	×
胃	10%	×

令和4年度北海道順位（179市町村）※保健所統計とは対象者の算出方法が異なるため、受診率は一致しません。

順位	胃がん		大腸がん		肺がん		乳がん		子宮頸がん	
高 ↑	新篠津村	30.3%	中富良野町	27.4%	中富良野町	31.4%	初山別村	50.7%	初山別村	37.2%
	初山別村	29.1%	秩父別町	25.2%	厚真町	29.7%	中川町	44.9%	増毛町	36.1%
	中富良野町	27.9%	更別村	24.8%	更別村	29.5%	音威子府村	43.5%	赤井川村	33.3%
							旭川市(106)	18.0%	旭川市(58)	19.5%
									北海道	17.0%
全国平均		6.9		6.9		6.0		16.2		15.8
低 ↓										
	北海道	5.0%	旭川市(148)	5.1%	北海道	4.2%				
	旭川市(156)	4.5%	北海道	4.9%	旭川市(168)	3.4%	北海道	14.4%		
	鹿部町	2.8%	北広島市	2.7%	留萌市	1.7%	鹿部町	8.0%	恵庭市	6.3%
	小樽市	1.9%	小樽市	2.6%	三笠市	1.1%	室蘭市	7.9%	室蘭市	3.1%
	室蘭市	0.4%	室蘭市	1.3%	小樽市	1.1%	三笠市	4.7%	三笠市	2.7%

! 胃・大腸・肺がん検診受診率が特に低い！

胃がん検診の見直しについて

■ 本市案 ■

- 対象者 50歳以上
- 検査方法 胃内視鏡検査又は胃部X線検査
- 受診間隔 2年に1回

※対象年に受診がない場合は翌年に権利を繰り越して受診可能

本市案に至った経緯

■ 対象年齢 現状 40歳 → 50歳へ変更

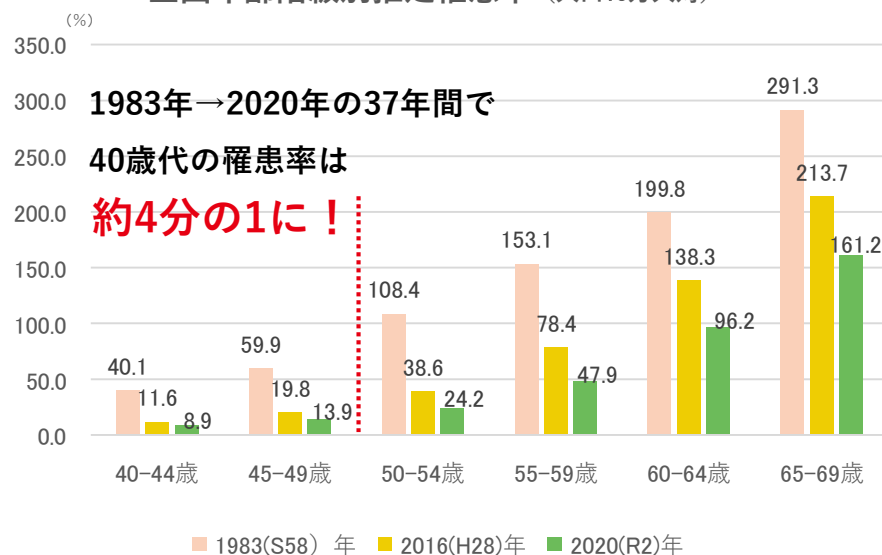
1970年代以降胃がんの罹患率、死亡率は減少傾向

- ・ 40代の罹患率は約2分の1に、死亡率は5分の1に減少（H28指針改定時）
- ・ ピロリ菌の40歳代の感染率は1990年代約60%→2010年代20%程度に

「がん検診のあり方に関する検討会」中間報告書

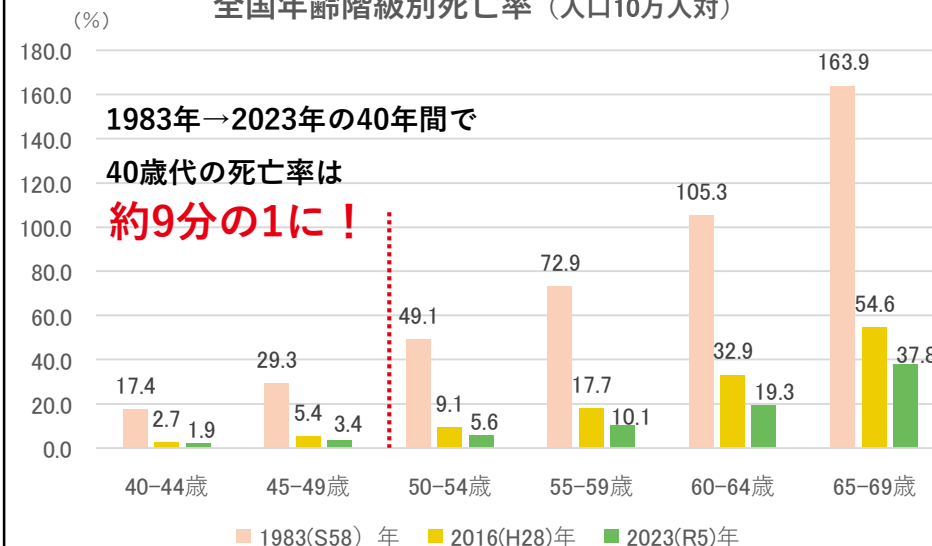
■ 【参考】 全国状況

全国年齢階級別推定罹患率（人口10万人対）



国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん罹患モニタリング集計（MCIJ））

全国年齢階級別死亡率（人口10万人対）

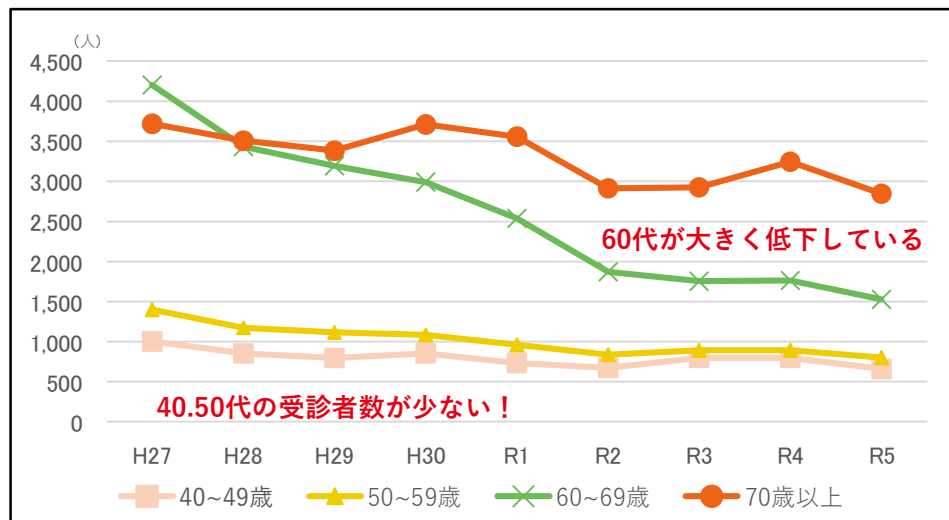


国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

本市の状況

第1回胃がん検診に係る懇談会
旭川市資料

胃がん検診の受診状況

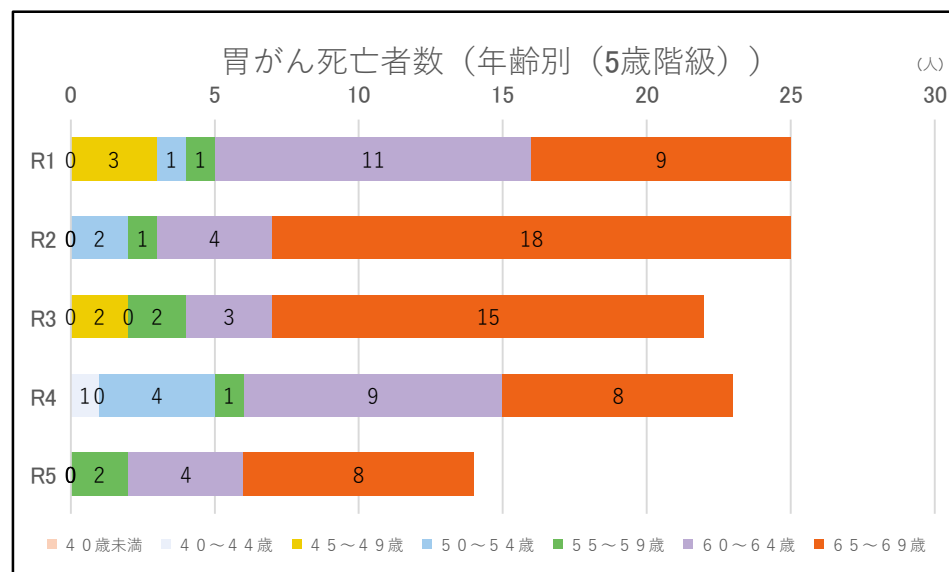


	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
40~49歳	1,001	851	796	853	733	671	794	797	658
50~59歳	1,401	1,172	1,114	1,081	960	837	890	892	798
60~69歳	4,203	3,434	3,193	2,991	2,538	1,872	1,755	1,765	1,529
70歳以上	3,720	3,507	3,385	3,710	3,558	2,913	2,925	3,244	2,845
総数	10,325	8,964	8,488	8,635	7,789	6,293	6,364	6,698	5,830

受診総数はH27年度の約の1/2に！ (▲4,495人)

旭川市内部資料

胃がん死亡者数



	R1	R2	R3	R4	R5
40歳未満	0	0	0	0	0
40~44歳	0	0	0	1	0
45~49歳	3	0	2	0	0
50~54歳	1	2	0	4	0
55~59歳	1	1	2	1	2
60~64歳	11	4	3	9	4
65~69歳	9	18	15	8	8
70歳以上	117	113	116	101	109
総計	142	138	138	124	123

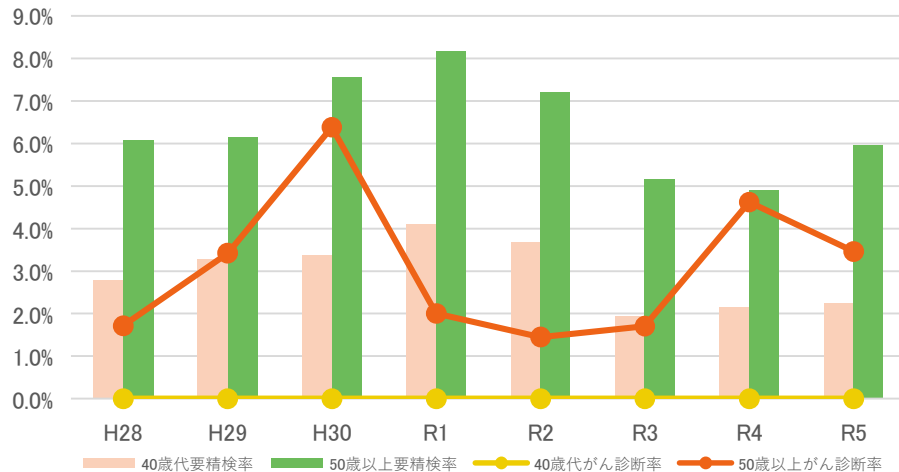
5年間（R1～R5）の
旭川市の胃がんでの
死亡者のうち40代は
0.9%(6名)

(地域保健・健康増進事業報告より抜粋)

本市の状況

第1回胃がん検診に係る懇談会
旭川市資料

胃がん検診要精検・胃がん診断率

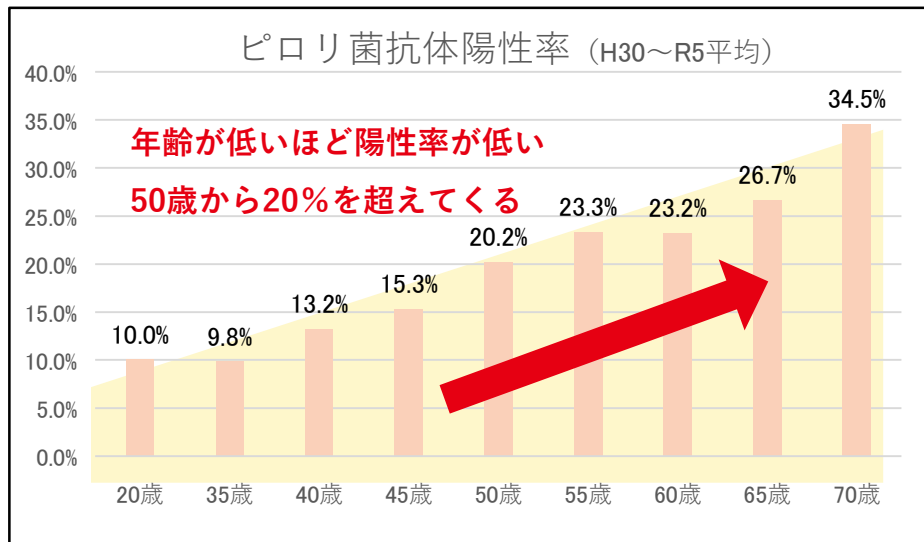


		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
40歳代	要精検率	2.80%	3.29%	3.39%	4.10%	3.68%	1.95%	2.14%	2.26%
	がん診断率	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
50歳以上	要精検率	6.09%	6.15%	7.55%	8.17%	7.20%	5.18%	4.90%	5.97%
	がん診断率	1.72%	3.42%	6.38%	2.01%	1.45%	1.70%	4.62%	3.46%

(地域保健・健康増進事業報告より抜粋)

**H28年度～R5年度まで実施した市のがん検診で
胃がんと診断された40歳代の方はいない。**

【参考】ピロリ菌検査受診率・抗体陽性率



旭川市内部資料
※20歳は総受診者数が少ないため参考値

ピロリ菌抗体検査の陽性率は40歳**13.2%**、45歳**15.3%**と、どちらも**20%を大きく下回っている**。
一方で50歳～は20%を超え、約5人に1名がピロリ菌抗体陽性となっている。

本市案に至った経緯

■ 受診間隔 1年に1回 → 2年に1回へ変更

有意性

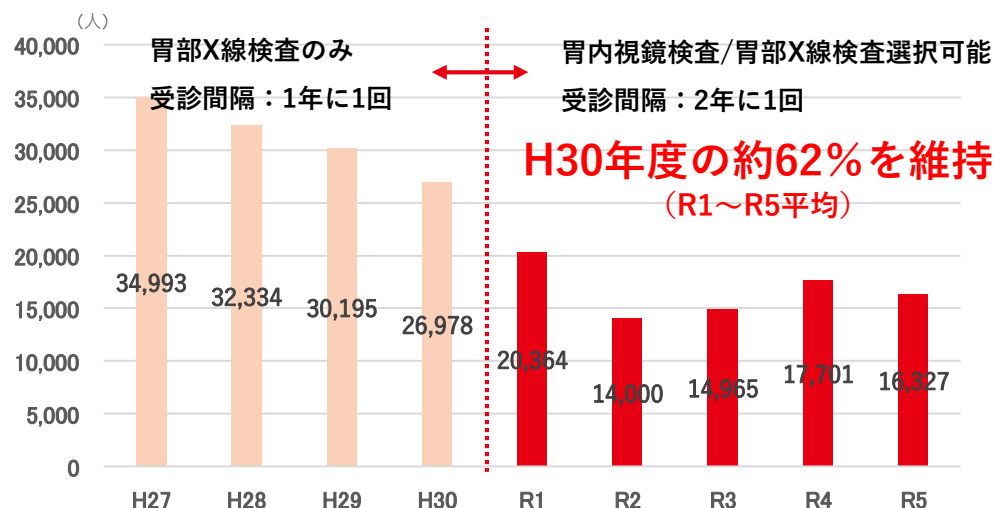
1～3年以内に胃がん検診を受診していた場合、死亡率が胃部X線検査で約60%、胃内視鏡検査で約40～70%有意に減少したという研究報告あり

受診率への影響

胃がん検診の検診間隔は平成19年の検討段階で隔年で差し支えないとされていたが、当時は受診率低下が懸念され逐年実施となった。その後、乳がん・子宮がん検診を隔年実施に変更した際に同様の懸念はあったものの受診率の低下は見られず、むしろ上昇傾向にあるため、胃がん検診でも同様に受診率を維持できる可能性が高い。

「がん検診のあり方に関する検討会」中間報告書

■ 【参考】札幌市胃がん検診受診者数の推移（50歳以上）



●札幌市の動向●

H31年1月から胃内視鏡検査を開始
同時に胃がん対象年齢を50歳に
検診間隔を2年に1回に変更
40歳にリスク検査を実施

対象者は半分（50%）になったが
受診者は半分（50%）になっていない！

他市の検診実施状況

■ 中核市の胃がん検診実施状況について（中核市：62市調査）

胃内視鏡検査						
実施			実施回数			未実施
40歳～	50歳～	その他	年 1 回	2 年に 1 回	その他	
10市	41市	3市	13市	39市	2市	8市
計 54市						

（R7.4 ホームページ調べ）

- 中核市のがん検診での内視鏡検査を実施している市は54市（約9割）
内視鏡検査を実施している市で、胃部X線検査を廃止したのは3市
- 胃部X線検査のみを実施している市町村は5市（約8%）
- 胃内視鏡検査、胃部X線検査のどちらも実施せずリスク検査のみ実施している市も3市ある。
- 国の指針どおりに実施している市は12市（約2割）

胃がん検診に係る国の動向

2015年9月（H27年）	「がん検診のあり方に関する検討会中間報告書」にて胃がん検診の今後の方向性が示される
2016年2月（H28年）	「がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針」改正 【胃がん検診】検査方法に胃内視鏡を追加 40歳以上→50歳以上 1年に1回→2年に1回 当分の間胃部X線検査に限り40歳以上年1回の受診について実施して差し支えない
2017年6月（R1年）	ピロリ菌除菌の保険適用による胃がん減少効果の検証を実施 ※慎重に検証を重ねることで今後継続
2020年3月（R2年）	胃がん検診の（当分の間という表現）が受診者や市町村の混乱を招いていると言う指摘より、見直しの検討について議論が必要という意見があり、 「「がん検診のあり方に関する検討会」における議論の中間整理（令和元年度版）（令和2年3月 がん検診のあり方に関する検討会）」の中に 「当分の間、40歳以上、年1回（胃部X線検査のみ）」と記載されていることについて、今後「当分の間」の取扱いを検討していくべきと明記される。
2021年8月（R3年）	がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針改正 【胃がん検診】特に推奨する者を50歳～69歳に設定 ※他の年齢層の受診を妨げるものではない
2022年7月（R4年）	第4期がん対策推進基本計画に向けた議論の中で、胃がん検診における内視鏡導入前後の状況について報告 2021年（R3年）時点で48.0%の自治体が胃内視鏡検査を実施

本市案(対象者及び検診方法)

- ・胃がん検診に係るがん検診ガイドライン改正時（H28改正）から約10年が経過しており、40歳代の胃がん罹患者、死亡者及びピロリ菌検査陽性率は改正時よりも減少している。
国の動向から見て今後ガイドラインの改正が行われた場合には当分の間実施可能とされている40歳代の胃部X線検査の経過措置を見直す可能性が考えられる。
- ・胃内視鏡検査の方が感度が高く2年に1回での有意性が科学的に証明されているため、本市として今後胃がん検診に胃内視鏡検査を導入していきたい。
- ・一方、巡回検診（集団バス検診）での受診者が一定数いることから、胃部X線検査にも一定のニーズがあると推察され、今後も胃内視鏡検査とともに継続して実施し、市民ニーズに対応していきたい。
（ガイドラインでは胃部X線検査についても2年に1回の検査で有意性が科学的に証明されている。）
- ・限られた財源の中で、本市の罹患状況等の推移を勘案し、胃がん検診を効果的かつ効率的に実施する必要があると考えている。

上記から

- ・検査方法に胃内視鏡検査を導入し、胃部エックス線検査とのいずれかを選択。
- ・40歳代の胃がん検診は50歳からの内視鏡検査導入に合わせ終了とする。
- ・受診間隔については胃内視鏡検査、胃部エックス線検査ともに2年に1回とする。

本市医療機関へのアンケート結果

■ 令和6年10月～11月にかけて市内の医療機関に胃内視鏡検査導入を検討するためのアンケートを実施。

アンケート対象医療機関：令和6年8月に実施したアンケートにて、

胃内視鏡検査を実施していると回答のあった **39 医療機関**

回収率：31 医療機関（75.0%）

調査結果

1 自院のみで市がん検診が対応可能	4 医療機関
2 ダブルチェックのみ他院と協力があれば対応可能	5 医療機関
3 自院でダブルチェックは対応できるが検査件数増には対応不可	2 医療機関

上記1・2の医療機関（合計9医療機関）で1日に1名の胃内視鏡検査を実施した場合（診療日数を200日と仮定）

9 医療機関 × 200 日間 = 1,800 件

実施可能と推計

R5年度の胃がん検診受診者数が5,830名（年1回受診可能）

胃がん検診を2年に1回受診可能とした場合の受診者を現行の約6割（3,500名）、検査方法の割合を50%ずつと想定した場合でも**対応可能な件数と推測される。**

胃がん検診の見直しについて

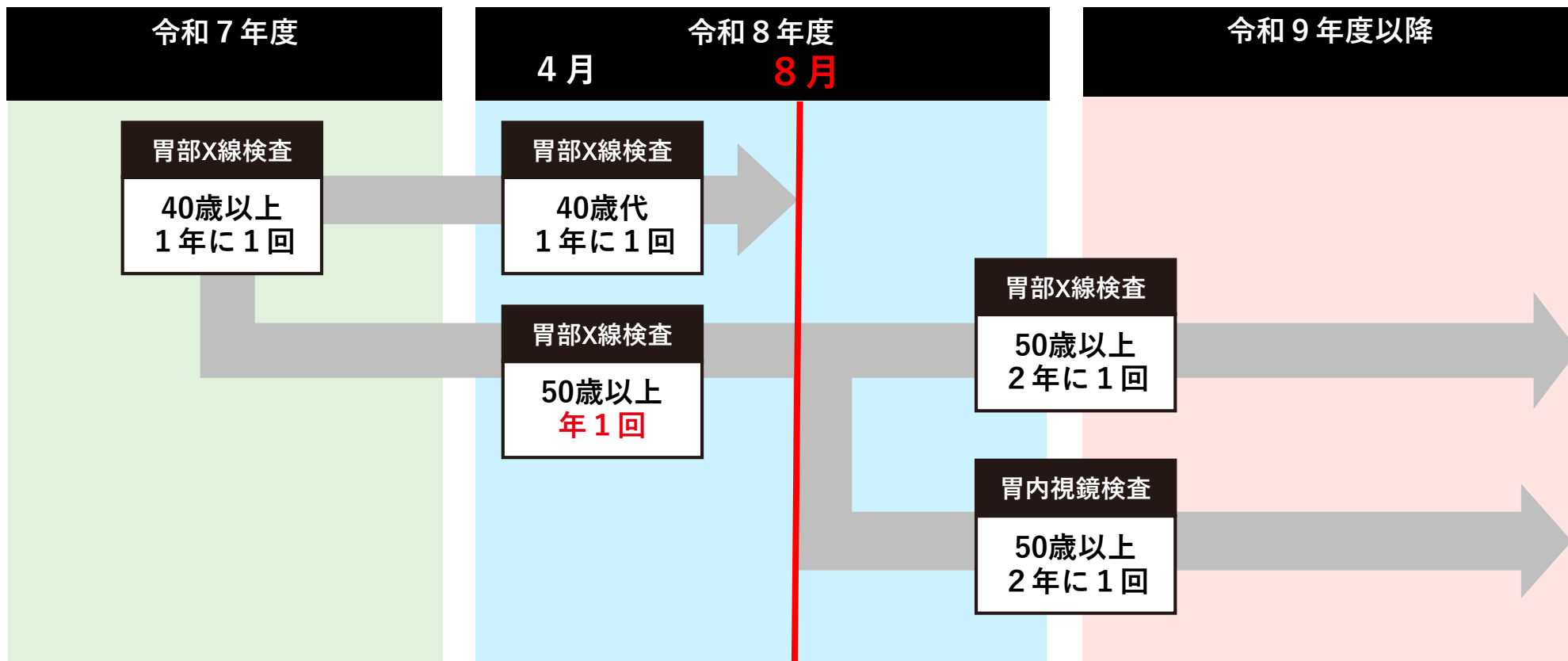
■ 本市案 ■

- 対象者 50歳以上
- 検査方法 胃内視鏡検査又は胃部X線検査
- 受診間隔 2年に1回

※対象年に受診がない場合は翌年に権利を繰り越して受診可能

※40歳代の胃がん検診は50歳からの内視鏡検査導入に合わせ終了とする。

胃がん検診見直しスケジュール(本市案)



- 胃内視鏡検査は周知や実施医療機関の決定等の準備期間を経て行うため、**令和8年8月からの導入予定**とする。
導入に合わせて、胃部X線検査の内容変更も行う。